

林野庁 森林・山村多目的機能発揮対策事業

山野草が群生する自然豊かな里山林再生プロジェクト

榛名里山林を守る会 代表 久保田伯一



企業 社会貢献活動

山野草園を計画している場所は、週末田舎暮らし情報館があるところから歩いて15分くらいのところにあります。山野草園の広さは約1,500坪で長さが150mくらいあります。山野草園づくりは下草刈りと遊歩道づくりそして山野草の植栽場づくりの段階で、未だ山野草の植え付けには至っておりません。これまでに少しずつ集めながら育てている山野草は週末田舎暮らし情報館内の育苗場にあります。ここで増やした山野草を山野草園に移植していく計画です。5月31日に高崎健康福祉大学から学生5人が体験ボランティアとして参加してくれました。

そして今回、10月18日に三井住友海上の社会貢献活動として84名を迎えて、山野草園づくりを進めることができました。榛名里山林を守る会のスタッフの指導のもと、伐採4班(20名)、遊歩道づくり7班(35名)、山野草植栽場づくり5班(25名)、食事・推進・誘導班(4名)が汗を流しました。

森林ボランティア活動が森林整備計画に基づいた自然涵養林の保護活動や水源涵養林の保護活動にどのように参加していったら環境保全活動として貢献できるかを考えると、継続性を維持できるかに大きな課題があります。人工林は原生林と異なり、人がいつも絶え間なく手入れをしていかないと、その機能を発揮することができません。そして、森林ボランティアが活動するのは県有林や民有林の人工林であり、森林ボランティア団体が行政などと連携をもって持続的に整備していますが、多くの民有林は林業の衰退と所有者の高齢化により荒廃した里山林となっています。このような里山林の再生のため、私たちはその里山を魅力的なものにして多くの人たちを森林・山村にいざない、森林に入った人たちが森林浴など森林の持ついろいろな効用を五感で感じてリフレッシュして森林に興味を持ってもらえることを期待するものです。

森林を知るためには、森林生態系について知ることが重要です。これは森林土壌が育むもので、水、植物、昆虫、動物、微生物の食物連鎖および自己施肥機能など物質・エネルギー循環が働き、大きな生物多様性を育んでいます。この生物多様性こそが森林の水源涵養機能とともに人間の生活に大きな関わりを持っています。地球規模で考えると熱帯雨林の消滅が砂漠化や生物多様性の循環異常による疫病発生などをもたらすと言われていすし、多くの薬の原料が熱帯雨林から発見されていること、熱帯雨林には未発見の植物や昆虫、微生物が数限りなく生息しており、人間を含めた生態系の循環に大きな関わりをもっていることは疑義をはさむところではないものと思われます。

日本では、持続可能な森林経営が謳われ、高蓄積森林の育成や活力ある森林の更新を行いながら林業振興を行い、森林の多目的機能の発揮を推進することで山村振興を推進していくことを目的としています。

私たちが行う里山林再生は、魅力ある里山づくりを山野草園づくりから発信していくものであり、同時に自然体験活動や森林環境教育などを組み合わせ提供していきたいと考えています。小さい活動ではありますが、楽しみながら長く継続できる活動として、イベント企画や自然体験活動など、いろいろなことを活動の中に取り込む努力を続けたいと考えています。同時に、学生が参加する体験ボランティア活動や企業が行う社会貢献活動を協力して実施できる機会を多く作る努力をしながら、里山林再生に向けていっしょに協力して活動できる仲間を募集しております。



昼食(キノコ鍋)

興味を持って楽しく活動するポイントとしては、同じ目的と価値観を持った

人たちが集まって活動していることがその実態だと思うのですが、建築家の丹下健三さんは、「オ・ハ・イ・オ」を考えて設計すると言っています。オは「おもしろいもの」、ハは「初めてのもの」、イは「意味あるもの」、最後のオは「(結果として)おどろきを与えるもの」だそうです。里山づくりの森林ボランティア活動として無理やりあてはめて見ますと、「おもしろいもの」は参加する人の価値観として、「初めてのもの」は活動の中に工夫をしてみることに、「意味あるもの」は森林整備の結果として肌で感じる事ができ、そこに達成感も付加されると、「(結果として)おどろきを与えるもの」は、森林の中に身を置いた結果として、五感で感じる感動に尽きると思えます。五感で感じるとは、「目」春には新緑・雪を抱く山並み、秋には紅葉、木もれ陽、夕焼け、朝もやなど、「耳」小鳥のさえずり、風の音、沢のせせらぎなど、「鼻」樹木の香り、花の香りなど、「味」空気や水のおいしさ、山菜、きのこなど、「触」腐葉土のフカフカした地面、木登り、木を切るなど・・・

森林に入って自然を五感で感じることにリラクゼーションの効用が心の豊かさとして感じられるような、ゆとりある人生観をもって自分を見つめる機会をつくることも時には大切なことと言えるでしょう。